

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (  可 ・  否 )

区 分	1.森づくり 4.森と暮らし	2 森の恵み 5.森の文化財	3.森と技 6.森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 運搬	(ふりがな) うんぱん	
地域独特の呼び方	—		
タイトル	山ダシ		
伝承地域	双葉郡川内村		
由 来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられたか)		
内 容	(内容とともに、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども) 伐採した材木の搬出を、山ダシという。材木を搬出するのは、コビキとは別に、山ダシという人達がいた。大木の場合は、倒した現場でコビキがホダ割りをしたものを搬出した。その時の運搬方法は、場所や材の大きさや量に応じていろいろな方法があった。		
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	(出典)『川内村史 第3巻 民俗編』 川内村教育委員会		

【継承活動を行っている方がいる場合】

個 人	氏名 (ふりがな)		※顔写真ありましたら、コピーか電子ファイルをご恵与願います。(貼りつけずに名前がわかるようにして同封ください。)
	性別・年齢	男 ・ 女	
	生年月日	明治・大正・昭和・平成 年生	
	住所・電話	〒 電話	
団 体	職 業		
	団体名 (ふりがな)		
	代表者氏名 (ふりがな)		
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成 年 月 日	
	問い合わせ先		

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。

キーワード

○木馬(キンマ)

木馬は、木材運搬用のソリの一種で、カシの木やヤマナシでソリを作った。小枝を長さ1m 位に切って、30cm おき位に並べ、ソリ道を作った。13 尺物まではソリ運搬であった。ソリ曳きと言って、これをなかば職業としていた人もいた。

○牛馬が曳く

牛は、明治初め頃までは牛方と言って牛使い専門の人達がいた。

牛で運搬する材は、ケヤキ材のような特殊材であった。クロキのまま出す大物は、よく牛を使った。

馬を使うときは、スギとかマツ、モミなどの大物の元の方の木口へハマグリという金の輪を打ち込んで、モドチという三つ縫りの太縄をハマグリにかけて曳き出した。

○人が曳く

ズルビキと言って、人が曳く時もハマグリは用いられる。この時、後ろにカジトリという人が付くこともある。

○人が担ぐ

材木に丸太を結び付け、両側で担ぐ。2 人ずつで4 人の場合や、8 人ががりということもある。これをハコにして担ぐという。元の方を2 人で担ぎ、木のうらの細い方に綱を結びそれに細木をテコにかけて1 人で担ぐ。これをトンボという。

担ぎ棒を使わず、直接肩で担ぐことをテンジョモヂという。

○木流し

水量の多い川では、川に流して材木を下流に出した。テッポーといって、支流の流れを堰止め、一度に堰を切って流し下ろす。

※活動の様子が分かる資料等があればコピーを1 部ご恵与ください。